



ロシア連邦ハバロフスク鉄道病院における
「日露予防医療診断センター（仮称）」の
設立に向けたフェージビリティースタディ
（結果概要）



2017年9月

 SHIP HEALTHCARE Research&Consulting

シップヘルスケアリサーチ & コンサルティング株式会社

目次

- (1) 日露医療協力に係るこれまでの経緯
- (2) 株式会社ロシア鉄道の概要
- (3) ハバロフスク鉄道病院の概要
- (4) 株式会社ロシア鉄道との「日露予防医療診断センター(仮称)」
設立プロジェクト
 - (4. 1) プロジェクトの目的とコンセプト
 - (4. 2) プロジェクトの概要
 - (4. 3) センターの事業スキーム(案)
 - (4. 4) SPC設立に関する基本的な考え方

(1) 日露医療協力に係るこれまでの経緯

【2016年】

○5月6日 日露首脳会談 (ロシア・ソチ)

安倍総理から「8項目の協力プラン」を提案し、**医療分野の協力を1つ目に位置付け**

○9月2～3日 日露首脳会談 (ロシア・ウラジオストク)

○12月15日 塩崎厚生労働大臣とスクヴォルツォヴァ保健大臣との会談 (日本・東京)

「日本国厚生労働省とロシア連邦保健省との間の医療・保健分野における協力覚書」に署名、**併せて厚生労働事務次官とロシア鉄道社長との間で「日本国厚生労働省とロシア鉄道との間の医療・保健分野における協力覚書」に署名**

○12月15日・16日 日露首脳会談 (日本)

【2017年】

○4月27日 日露首脳会談 (ロシア・モスクワ)

安倍総理から、医療と都市環境に関する協力の進捗及びメリットについてまとめた映像をプーチン大統領に提示し、「8項目の協力プラン」の更なる具体化に一致、**併せて厚生労働事務次官とロシア鉄道社長との間で「日露予防医療診断センター(仮称)設立プロジェクトについてのフィージビリティスタディ実施に関する合意文書」を締結**

○9月6日・7日 日露首脳会談 及び東方経済フォーラム (ロシア・ウラジオストク)

(2) 株式会社ロシア鉄道の概要

- **貨物量・乗客量の観点で、世界最大規模の鉄道会社の一つ**であり、従業員は約100万人を数え、ロシア国内の社会インフラ整備や社会保障に対しても大きな影響力
- 2001年、ロシア連邦「鉄道輸送の構造改革プログラム」により、鉄道産業改革の第一歩として、2003年9月に設立
- ロシアの株式会社であり、ロシア連邦が100%株式を保有
 - ※2016年10月決算時、資本金：約2兆1002億ルーブル / 売上高：約2兆1333億ルーブル
- **ロシア国内に大規模な医療機関のネットワーク(102病院・71診療所)**を持つとともに、移動型の「医療列車」を保有



(3) ハバロフスク鉄道病院の概要

- 位置付け：ハバロフスク市内にあり、**ロシア極東地域における鉄道病院の中核の**役割を果たす
- 病床数：471床
- 診療科目：内科、循環器内科、消化器内科、内分泌科、神経内科、血液内科、呼吸器内科、腎臓内科、一般外科、外傷外科、血管外科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科
- 従業員数：1,545人（うち、医師は286人）
- 健康診断・外来患者数（2016年）：約66,000人

➡ 日露医療協力の一環として「**日露予防医療診断センター（仮称）**」の整備を予定



(4.1)プロジェクトの目的とコンセプト

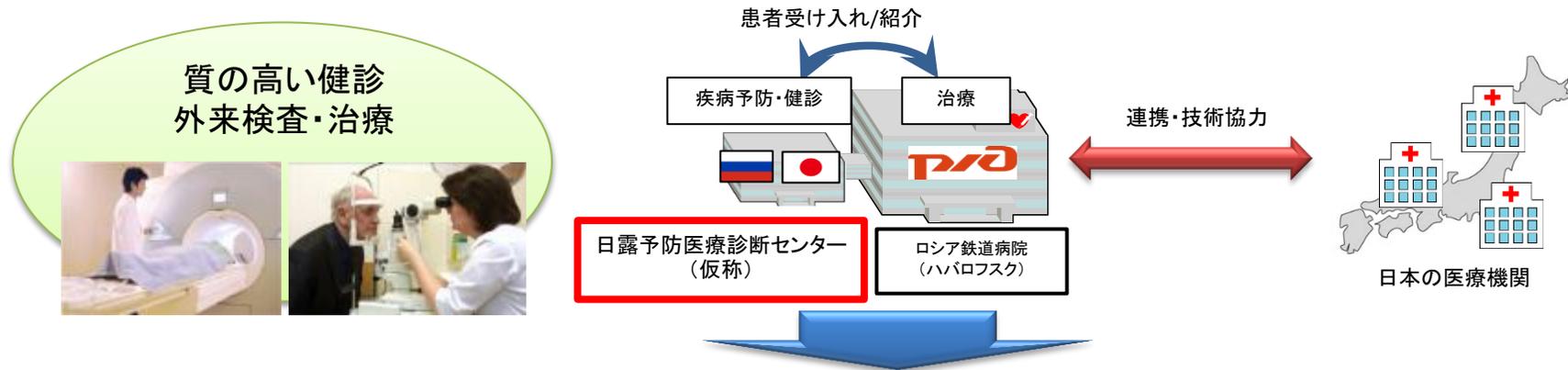
目的

日本の医療機器を用いた質の高い健康診断・人間ドック・外来治療サービスの提供を通じ、ロシアの人々の疾病予防及び健康増進に貢献する

コンセプト

STEP1 : ハバロフスクのロシア鉄道病院におけるパイロットプロジェクト
（「日露予防医療診断センター(仮称)」の整備）

日本の医療機関とも協力し、質の高い健康診断及び外来検査・治療を実施。
疾病の早期発見、健康管理の大切さをロシアの方々に伝えるモデルを構築。



STEP2 : ハバロフスク以外のロシア鉄道病院への展開

ロシア鉄道病院のネットワークを活かして、ロシア全土の鉄道病院に、第2・第3のプロジェクトを展開していく。その際、場所やプロジェクトの具体的内容を構想する段階から、日本側が関与する。

(4. 2)プロジェクトの概要

建物

- ハバロフスク鉄道病院にある既存の建物を「改修」
- 日本の知見・経験を活かし、「部門集約型のゾーニング」、「検査部門の拡充」による動線の見直し等、業務の効率化を追求

医療機器・サービス

- マンモグラフィー、内視鏡、医療用画像管理システム(PACS)、超音波診断装置等の最新の日本製医療機器を導入
- 医療従事者等に対する技術指導及び教育を実施

提供サービス(案)

健康診断: 日本における健康診断や人間ドックをベースとした健康診断メニュー

外来検査: 最新の日本製医療機器を導入し、病気の早期発見に資する検査

外来治療: 消化器内視鏡等による低侵襲な治療

(4.3) センターの事業スキーム(案)

基本方針

- 日・露双方により、医療・保健分野の事業を対象とした特別目的会社(SPC)を、新しい法人として設立する
 - 出資比率は、日本側パートナーが決まった後に要協議(日 ≧ 露を想定)
- SPCの活動は、以下の3点
 - a ハバロフスク鉄道病院に対する、施設改修の資金貸付け
 - b 予防医療診断センターに対する、医療機器利用のための整備
 - c 予防医療診断センターに対する、技術指導
- SPCは、ハバロフスクの「センター」だけではなく、今後続く第2・第3のプロジェクトへの展開を視野に入れる



(4.4) SPC設立に関する基本的な考え方

センターにおける 事業の責任主体

- 本事業における、責任主体は以下の通りである
 - 経営の責任は、ロシア鉄道本社とハバロフスク鉄道病院
 - 運営(オペレーション)の責任は、ハバロフスク鉄道病院

SPCの活動

SPCの活動は、以下の3点

- a** ハバロフスク鉄道病院に対する、施設改修の資金貸付け
 - SPCが、ハバロフスク鉄道病院に、施設改修に関わる費用を貸付ける
 - ハバロフスク鉄道病院は、10年間で、上記の貸付けを返却する
 - ロシア鉄道本社は、SPC に対して、ハバロフスク鉄道病院の債務を保証
- b** 予防医療診断センターに対する、医療機器利用のための整備
 - SPCが、予防医療診断センターに、医療機器を配置し、整備も行う
 - 医療機器利用料金は定額とし、予防医療診断センターより、SPCに対して支払われる
 - 開院5年後に、SPCは 予防医療診断センターに、医療機器を譲渡する
- c** 予防医療診断センターに対する、技術指導
 - SPCは、予防医療診断センターより、技術指導料を徴収する
 - 技術指導料は、定額とする